

光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP)  
ステージゲート評価結果 (5年目)

1. 研究開発課題名  
光子数識別量子ナノフォトニクスの創成
2. 研究代表者名 (所属機関名・職名は評価時点)  
国立大学法人東北大学 電気通信研究所・教授  
枝松 圭一

3. ステージゲート評価結果 (5年目)

○結果

5年目ステージゲートで終了とする

○評点

C:評価項目を満たしておらず、課題の継続実施は妥当ではない

○総合評価コメント

SG 目標として、①量子光源・量子光集積回路、②光子数識別検出器、③量子計測技術それぞれで高い数値目標を設定していたが多くが未達であり、達成見込みとする根拠も不十分である。設定目標が高すぎる点を考慮しても、実績として十分な成果が出ているとは言い難い。例えば、本提案の重要な開発課題である超低損失シリコン導波路の実現も、その目標達成が困難とのことだが、当初目的であった集積化の目途をどうつけるのかの明確な戦略も不十分である。

以上を踏まえて、本課題については中止が妥当と判断する。

以上